

# eポートフォリオと連携するゼミ選考システム展開 The Development of the Seminar Selection System Collaborated with e-portfolio

田村晶子

法政大学比較経済研究所

(2011～2012 年度経済学部教授会主任)

あらまし：経済学部では、2012 年度、学部の重点目標に関わる「2-4 年次の専門ゼミの募集方法の改善」への施策として、Web によるゼミ応募システムを導入した。経済学部では、ゼミ募集で希望者が特定ゼミに集中して多くの不合格者が出てしまうことなどにより、入ゼミ希望者のうち 100 名程度がゼミを履修出来ていない。システム導入で、これまでの手作業による応募では不可能だった中途での志望ゼミ変更が可能になり、さらに応募動向の細かい分析も可能になった。今年度は、さらにそこから進み e ポートフォリオの導入により、単なるゼミ応募のシステムにとどまらず、学生の自発的な学びを促し、それを評価してゼミ選考を行えるシステムを構築する。

キーワード：少人数教育、ゼミ選考システム、eポートフォリオ

## 1. はじめに

法政大学経済学部は、法政大学でも最も学生数が多い学部であり、在籍する1年生は約900名である。一方、専任教員数は2011年度、72名であり、専任教員1人あたり学生数は61名と最も多い。その状況下で、経済学部では、「カリキュラム・ポリシーに謳う少人数教育に向けた改善」を学部の重点目標とし、1年次の入門ゼミの少人数化と共通シラバス、2-4年次の専門ゼミの募集方法の改善、を目指している。

経済学部の専門ゼミは70以上が開講されているが、少人数教育を確保するため、ゼミには定員があり、希望者するゼミを履修出来るわけではなく、選考が行われている。専門ゼミの募集をめぐるのは、特定ゼミへの応募が集中することによりゼミを履修出来ない学生が100名程度もいる問題と、ゼミ選考の基準に対する学生の不満があった。ゼミを履修出来なかった学生の不満は大きく、保護者からも学生がゼミ履修を出来ない不満が多く聞かれる。

2-4年次の専門ゼミの募集方法の改善のための施策として、2012年度にWebによるゼミ選考システムを導入した。Webによるゼミ選考システムにより、いままでの紙ベースでは作業が複雑になり行えなかった、1次募集での応募ゼミの変更が行えるようになった。また、複数応募が可能な2次募集では、学生がどこのゼミを選ぶのかの確定が、教員にとっては4月に履修するまでわからなかったが、学生が1つのゼミのみを入ゼミを確定するようにした。また、紙ベースでは、不明瞭だったメールアドレス等の情報が鮮明となり、情報管理も楽になった。

2013年度は、eポートフォリオと連携し、学生が1年次での勉強の成果を自己アピールとして、ゼミ選考に反映できる機会を作った。

## 2. 法政大学経済学部におけるゼミ選考

法政大学経済学部の専門ゼミは2年生～4年生が同じゼミを履修する。「少人数教育」の環境を確保するため、2010年以前はゼミの定員は各学年8名程度

であり、2009年度に新2年生の定員を10名、2011年度には12名と増やしたが、すべての学生が希望するゼミを履修出来るわけではない。その学生を選ぶため、試験、レポート、面接による選考があり、1年次の11月に1つのゼミのみに応募する1次募集、12月に複数のゼミに応募可能な2次募集、さらに、新2年生となった4月に3次募集が行われている。2010年11月の1次募集では、1年生在籍1040名のうち880名がゼミに応募したが、12月の2次募集、4月の3次募集を経ても、4月にゼミ履修した新2年生は658名(約75%)であった。2011年度は、いままでゼミ募集をしていなかった教員にもゼミ開講を依頼するとともに、各ゼミの新2年生の募集人数を12名に引き上げるようお願いした。その結果、2011年11月の募集では、1年生在籍957名のうち788名がゼミに応募し、4月にゼミ履修した新2年生は686名(約87%)と、希望者のゼミ履修率は上昇したものの、希望者のうち100名程度はゼミ履修が出来ていない。

2011年11月に2年生を対象にしたアンケートでは、ゼミを希望しながらゼミに入れなかった学生のうち、第1次募集で諦めてしまう学生が多いことがわかった。また、ゼミに対する満足度も、第1次募集で履修した学生に比べて、第2次募集、第3次募集で履修した学生は、満足度が低いことがわかった。

1次募集では特定のゼミに応募が集中することが多く、経済学部では過去に、1次募集の結果を公表した上でゼミ応募を変更する機会を学生に与えていたが、紙ベースでは事務作業が複雑なため、そのような措置は近年では行われなくなっていた。

2011年度までのゼミ選考は、募集から選考、合格発表まで紙ベースで行われており、上述のような事務作業の複雑さ、紙での情報の取り扱いにくさ、2次募集合格者がどこのゼミを履修するかが確定できないといった問題点があった。

## 3. 2012年に導入したゼミ選考システム

2012年に情報メディア教育研究センターの協力

を得て、紙ベースの応募を廃止し、ゼミ選考の WEB システムを開発した。このシステムはゼミに応募するすべての学生、ゼミを開講するすべての教員、さらに、担当の事務職員が利用する。2012 年度の導入では、移行時の混乱や教員の負担感を避けるため、従来の紙ベースの選考プロセスを WEB システムに移行させることに留意しつつ、WEB により従来あった問題の克服を図った。

ゼミ選考の WEB システムでは、第 1 次募集の応募状況を応募締切りとともに応募学生に開示し、一度だけ、応募先のゼミを変更できるようにした。また、第 2 次募集において、複数のゼミから合格をもたらした学生が、どこのゼミを受講するかの希望を示すため、「可否確認ボタン」を一つのゼミだけに押せるようにした。それにより教員には、合格した学生が「まだ合格を確定していない」「合格を確定」「他ゼミに合格を確定」のいずれかがわかるようになった。

また、従来紙ベースで提出させていた学生の情報（生年月日、住所、連絡先メールアドレス、趣味、サークル、自己アピールなど）は、CSV 形式でダウンロードが可能となり、教員が必要な情報を抽出して、面接資料をつくることなどが可能となった。

#### 4. 2012 年ゼミ募集のまとめ

紙ベースの応募票では自己 PR の欄が小さかったのに対し、WEB システムでは自己 PR を 400 字未満としたところ、多くの学生がほぼ 400 字の自己 PR を熱心に書き、応募学生が自己 PR を重視していることが分かった。また、この WEB システムにより、学生の情報の管理や応募者との連絡がスムーズになったことが、多くの教員から評価された。

1 次募集の変更を 1 度認めたことにより、すべてのゼミを合計して 104 人の移動があった。締切りまでに応募せずに変更期間で応募した学生が 18 名いたため、この変更期間に志望変更を行った学生は 43 名であったと考えられる。応募者が 12 名以上のゼミグループ(27ゼミ)では全体で応募者が 2 名減少し、応募者が 5 名以下のゼミグループ(23ゼミ)では全体で 2 名増加した。応募者が 6~11 名のゼミグループ(13ゼミ)では全体で 19 名の増加があった。2012 年では、応募が過度に集中したゼミがなかったため、変更は少なかったと考えられるが、応募者が多いゼミが応募者を減らし、応募者が少ないゼミが応募者を増やす効果は確認できた。ただし、個々のゼミを見ると、応募者が 5 名以下のゼミで応募者がゼロになるなど、逆の動きがあるものもあった。

WEB システムを導入したゼミ募集では、いままでに把握できなかった学生のゼミ合格の状況を的確に把握することができるようになった。(以前は 1 次募集の人数、および、各募集の合格者のみが把握可能で、2 次募集、3 次募集の状況は当事者以外にはわかっていなかった。) 2012 年の 1 次募集応募者は、736 名で、1 次募集合格者は、411 名であった。2 次募集

応募者は(延べ人数) 1,216 名、(実数) 309 名で、2 次募集合格者は(延べ人数) 308 名、(実数) 237 名、臨時に行われた 2 次追加募集応募者は(延べ人数) 15 名、実数 11 名、2 次追加募集合格者は(延べ人数、実数とも) 7 名であった。3 次募集の応募は 61 名、合格者は 39 名であった。最終的に 2013 年 4 月にゼミを履修した新 2 年生は 669 名であり、依然として第 1 次募集での希望者のうち 67 名がゼミを履修出来ていないが、1 次募集応募者に占めるゼミ履修者の割合は約 90%に上昇した。

1 次募集、2 次募集(追加含む)までの 1 年生の不合格者 112 名のうち、1 次募集に不合格になったあと 2 次募集に応募しなかった学生は 53 名で、半数に近いことがわかった。

#### 5. 2013 年ゼミ選考システムの拡張

2012 年の選考でも明らかになったように、ゼミを志望する 1 年生は、積極的に自己 PR を行いたいと考えている。2013 年度のゼミ募集では、2012 年度に導入したゼミ選考システムを拡張し、e ポートフォリオと連携させて、ゼミ選考での自己 PR などに使う。1 年次での勉強を学生が積極的に e ポートフォリオにまとめ、ゼミ選考の時のアピールに使えるようにするのが将来的な目的であるが、導入開始の 2013 年は、学生/教員に e ポートフォリオになれてもらうため、まず、ゼミ選考に特化したエントリーシートのテンプレートを作成し、「学生がゼミでやりたいこと/目標」「自己 PR」とともに、「テキスト欄」を設けてゼミから指定された内容を書き入れ、ゼミから指定されたレポートをアップロードできる場を設ける。



図 e ポートフォリオを用いたエントリーシート

来年度以降は、入門ゼミの勉強成果を e ポートフォリオにまとめるように指導して、入門ゼミを中心とする 1 年生の勉強を活性化したい。また、ゼミを持つ教員の希望があれば、ゼミの e ポートフォリオを作り、ゼミの研究活動を活性化する。さらに卒業後もゼミ OB として e ポートフォリオにアクセス可

能にすることで、現役生と OB との交流の場とする  
ことも考えられる。

また、2013 年度のシステムでは、多くの教員から  
希望があった、2 次募集での追加(補欠)合格を可能に  
する。2 次募集選考後、合格させた学生が 12 月 16  
日までに合格確定していない場合、その合格を無効  
とし、12 月 18 日、19 日に「追加合格」を出すこ  
とが可能とし、追加合格者は、12 月 20 日までに合格  
を確定させることとする。このような仕組みも、  
WEB システムへの移行なくしては不可能であった  
だろう。

## 6. おわりに

2012 年度に経済学部を導入したゼミ選考 WEB  
システムは「紙から WEB へ」の移行により、紙の  
処理による煩雑さを解消するとともに、1 次募集で  
の応募先ゼミの変更や、2 次募集における合格確定  
など、ゼミ選考にあった問題点を解決できた。

2013 年度には、e ポートフォリオとの連携により、  
希望ゼミの履修を目指す 1 年生の自主的な勉強を促  
すとともに、教員側には、ゼミ選考にあたって、応  
募学生の勉強に対するより多くの情報を提供する。

今回のゼミ選考システムの導入は、経済学部のす  
べての教員と学生が使うシステムのため、よりわか  
りやすく簡便なものにせざるを得なかったが、希望  
する教員のゼミでは、e ポートフォリオ本来のより  
広範な利用を将来促し、ゼミ教育の充実を図って行  
ければ良いと願っている。

### 参考資料

- (1) 法政大学経済学部 [2012]:『経済学部 カリキュラム  
改善のためのアンケート(2 年生)結果報告書』 2012  
年 3 月。
- (2) 法政大学経済学部 [2013]:『経済学部 カリキュラム  
改善のためのアンケート(2 年生)結果報告書』 2013  
年 3 月。
- (3) 法政大学 [2011]:『2011 年度自己点検・評価報告書  
(学部等・大学院・研究所)].  
[http://www.hosei.ac.jp/hyoka/qu\\_02.html](http://www.hosei.ac.jp/hyoka/qu_02.html).
- (4) 法政大学 [2012]:『2012 年度自己点検・評価報告書  
(学部等・大学院・研究所)].  
[http://www.hosei.ac.jp/hyoka/qu\\_02.html](http://www.hosei.ac.jp/hyoka/qu_02.html).